

■造形表現科

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	共通授業	2023年度	前期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	共通Ⅱ-1「骨格」ドローイング	実習	清水健太郎

授業の到達目標 (目標とする検定)	骨(人体骨格モデルや牛骨など)の多角的な観察を通して、有機的な形態や質感・明暗などから独自の造形的魅力を見つけ出す力を養うと共に、その魅力を効果的に伝える構図や構成、描写する力を高める。
----------------------	---

授業の内容	<p>期間:4/10~4/13 AM 計4コマ</p> <p>我々人間を含め生物の体内に存在する「骨」には、肉体の機能ゆえの多様な形状を有しているが、造形的観点で見ても、とても魅力的な要素を多く含んでいる。 今回の授業では、「骨」を人体としての関連性や生物的機能などから切り離し、純粋に自然が作り出した造形物として扱い、それぞれの視点により見出した魅力的な形態や明暗、テクスチャーなどの部分を基に、その魅力を絵としてより効果的に伝えるべく構図や構成などを意識しながら積極的にドローイングを試みる。</p> <p>・まずはクロッキー帳へのドローイングを通して取材や構図の吟味を行う。 特に構図については、自身が面白いと感じた部分をいかに絵画的魅力として見せるかをしっかり模索する。</p> <p>・ドローイングについては、木炭紙サイズの紙に鉛筆などの単色のみの描画材に限らずカラーコンテ(カラーパステル又はコンテパステル)や水性絵具による色彩も関わらせるなど、柔軟かつ積極的なアプローチで描き進める。</p>
-------	---

週	授業計画 及び 学習の内容	
1	4/10 前提講義	4/13 講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
Webポータル参照

<p>授業持ち物</p> <p>・ドローイング用具 クロッキー帳・鉛筆・カラーコンテ(カラーパステル又はコンテパステル)・水性絵具(水彩・アクリル絵具)など</p> <p>・TMKポスター紙(B2)(事務室で購入し、木炭紙サイズにカットする)</p>	<p>学校で準備する教材など</p> <p>・モチーフ(人体骨格・牛骨など骨各種)</p> <p>・モチーフ台 数台</p> <p>・画板(中)人数分</p>
---	---

配付資料

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	共通授業	2023年度	前期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	共通Ⅱ-2解剖学概論(人体デッサン)	実習	大家泰仁

授業の到達目標 (目標とする検定)	<p>人体の基本的な構造(骨格および筋肉)についての理解を深める。 身体の各部(皮膚、筋肉、骨格)を造形要素として捉えて描画する。</p>
----------------------	--

授業の内容	<p>期間:4/17~4/27 AM 計8コマ 通常人体は外見を観察して描きます。ただ身体の外見は、骨格や筋肉等の内部の構造と表裏一体にあります。 この課題では、まずB1サイズの大きな画面に人体を描きます。そして画面に描かれた像の上に骨格や筋肉を描きます。1枚の画面に身体の外側と内側の両方を重ねて描くことで、人体の形と構造の理解を深めます。</p> <p>※対象物(モチーフ)・・・男性ヌードモデル。主に連続の固定ポーズを設定します。</p> <p>※骨格を描く際は、骨格見本(模型)や解剖図(資料)を参考にします。授業で参考にする資料は学校で用意しますが、各自で参考にできる資料があれば持参してください。</p> <p>※観察と推察により描くことが求められます。じっくり丁寧に描くことも大事ですが、各自の自由な発想による構成やドローイング等にも展開させましょう。</p> <p>※毎回の授業は始めにクロッキーを行います。</p>
-------	--

週	授業計画 及び 学習の内容
2	4/17 前提講義(スライド)、制作
3	4/27 講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の實務経験(企業や団体での實務経験)
Webポータル参照

授業持ち物 ・ドローイング用具 クロッキー帳・鉛筆・カラーコンテ(カラーパステル又はコンテパステル)・水性絵具(水彩・アクリル絵具)など B1サイズTMKポスター紙(事務室にて販売あり。事前に購入をしてください。)	学校で準備する教材など ・モデル(男性・ヌード) ・B1サイズTMKポスター紙 ・画板(大) ・人体骨格見本・解剖図 ・関節の模型(部分) ・プロジェクタとスクリーン ・棒(モデル用)
--	---

配付資料

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	共通授業	2023年度	前期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	共通II-3塑像II	実習	工藤里紗

授業の到達目標 (目標とする検定)	対象物の「構造・質感・量感」など、立体としての物の捉え方を学ぶ。
----------------------	----------------------------------

授業の内容	<p>期間:5/8~5/11 AM 4コマ</p> <p>石膏像をモチーフにし、人物の頭部を構造体として捉えて粘土で首像または胸像を制作する。顔の正面だけではなく奥行や側面、頭と首とのつながりなどを意識する事。</p> <p>彫刻の構造に意識を持つため、心棒制作を行う。 心棒は、粘土の重さを支えるためだけでなく、対象物の大きさや比率・面の方向などを、塑像板の上で具体的に考えることに役立つ。</p>
-------	--

週	授業計画 及び 学習の内容
4	5/8前提講義 5/11講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
Webポータル参照

<p>授業持ち物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業着 ・不要な布(さらしのような生地が好ましいが、不要なTシャツやタオルなどでも可) ※粘土が乾かないよう途中の作品に巻いておくため ・クロッキー帳、描画道具 ・粘土べら(持っている方は持参してください) 	<p>学校で準備する教材など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石膏像 ・心棒の道具 ・粘土 ・塑像板、 ・ゴミ袋(人数分) ・粘土べら ・麻ひも
---	---

配付資料

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	共通授業	2023年度	前期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	共通II-4色彩構成II	実習	永井俊一

授業の到達目標 (目標とする検定)	色彩についての知識を活かし、それぞれの色が持つ特性を効果的に利用して制作意図に沿った色彩表現を実践する。
----------------------	--

授業の内容	<p>期間:5/15~25 AM 8コマ</p> <p>前半は、色の三属性(色相・明度・彩度)に関する講義と、小さな課題で色彩の知識を復習します。</p> <p>後半は、色彩とイメージをテーマに1枚の作品を制作します。</p>
-------	---

週	授業計画 及び 学習の内容
5	5/15前提 色彩に関する講義と課題制作
6	色彩に関する講義と課題制作 5/25講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
Webポータル参照

<p>授業持ち物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クロッキー帳 鉛筆 ・色の画材(色鉛筆 水彩絵具 水彩筆など 持っているもので良いです) ・画用紙を木炭紙大パネルに水張りする ※画用紙は事務室で購入できます ・水張りテープ ※水張りは授業内で指導します 	<p>学校で準備する教材など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PCとモニター ・モチーフ ・木炭紙大パネル(人数分) ・水張り用の刷毛
---	---

配付資料

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	絵画コース	2023年度	前期
講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員	
必修	絵画Ⅱ-1静物(光と影) 【304教室】	実習	清水健太郎	

授業の到達目標 (目標とする検定)	絵画制作における基本的捉え方である明暗法を踏まえつつ、「光と影」の存在をより造形的に展開する視点を持つことで、さらに豊かな絵画的表現力を高める。
----------------------	--

授業の内容	<p>期間:4/10~4/27 PM 計12コマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静物をモチーフとして、光と影を造形的ポイントにした表現を試みた作品(F15号)を制作する。 ・様々な名画を通して、光や影がどのように活用されているかを紹介。 ・植物を中心とした静物をモチーフとし、まずはクロッキーやドローイングを通して、対象の明暗や形態等を把握する。特に光と影に注目し、光の効果、明暗の分布や組立てについて造形的発展性をもって模索する。 ・油彩による描画を通して、さらに光と影の表現において色彩やタッチなど油絵具固有の表現効果の展開性を探る。 ・復習として、油絵具の用具についての基本的な扱いや特性についての説明、キャンバスの張り方なども実習する。
-------	--

週	授業計画 及び 学習の内容
1	4/10画材オリエンテーション (油彩画用具についての解説や授業前提講義) 4/11キャンバス張り実習 制作
2	制作
3	制作 4/27講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
Webポータル参照

<p>授業持ち物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドローイング用具 クロッキー帳・鉛筆・カラーコンテ(カラーパステル又はコンテパステル)・水性絵具(水彩・アクリル絵具)など ・油彩用具一式(アクリル絵具も可) ※F15号キャンバス(キャンバス布と木枠)は学校で用意します(有料)※キャンバス張りを実施 	<p>学校で準備する教材など</p> <ul style="list-style-type: none"> エスキース用クラフト紙 モチーフ(観葉植物や流木・枯れ枝・トルソ・石膏像など) モチーフ台 キャンバス張り器・タックス 金づち・木槌・霧吹き ※キャンバス布と木枠(人数分)
--	--

配付資料

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	絵画コース	2023年度	前期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	絵画Ⅱ-2グリザイユ技法(人体) 【304教室】	実習	中嶋明

授業の到達目標 (目標とする検定)	<p>絵画を感覚的にとらえるのではなく、色と形を構築的に組み立てるシステムとして「明度」を優先した伝統的な制作技法を理解する。 不透明色、透明色の性質、またその扱い方の違いを身につける。</p>
----------------------	---

授業の内容	<p>期間:5/8~5/25 PM 計12コマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・着衣の女性モデルをモチーフに、グリザイユ技法で油彩画を制作(F15号)する。 ・絵画を感覚的にとらえるのではなく、色と形を構築的に組み立てるシステムとしての側面を理解していく。 ・不透明色、透明色の性質、またその扱い方の違いを身につける。 ・木炭によるデッサンから始め、油絵具のシルバーホワイトとピーチブラックの白黒の2色のみで描いていく。 ・形体と空間、材質感など油絵で描くデッサンとしてひとまず完成させる。 ・モノトーンの絵画として描き終えた後、透明度の高い有彩色で色彩を整える。
-------	--

週	授業計画 及び 学習の内容
4	5/8 前提講義 制作
5	制作
6	制作 5/25講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
Webポータル参照

<p>授業持ち物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・F15号キャンバス ・クロッキー帳 ・木炭 ・油彩用具一式(白色絵具はシルバーホワイト、黒色絵具はピーチブラックを用意) ・アルキド系速乾メディウム 	<p>学校で準備する教材など</p> <p>コスチュームモデル(女性) (ドレープやヒダがある服など) モデル台</p>
--	--

配付資料

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	絵画コース	2023年度	前期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	絵画Ⅱ-3色彩と素材 【304教室】	実習	大島幹

授業の到達目標 (目標とする検定)	モチーフの固有色に捕らわれることなく色彩に対する柔軟性のある発想力と応用力を鍛える。 また、絵具の物質性にも注目し、水性・油性の特性や扱い方、表現的可能性についての認識を高める。
----------------------	--

授業の内容	<p>期間:5/29~6/8 AM/PM 計16コマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な材質感を持つ物を組み合わせた静物をモチーフに、色彩等の表現的展開を試みた絵画(15~20号)を制作する。 ・水性系(アクリルジェッツなど)下地材やメディウム類を用いて、テクスチャー作りやコラージュなどを行った後、水性及び油性の絵具による着彩を施す。 ・着彩は、目の前のモチーフの固有色に捕らわれずに、自由な発想による色彩表現を試みる(コラージュ素材本来の色と絵具の色との関りや色彩同士の偶然的出会い等も模索する)。また、描画に際しても筆だけでなくローラーやヘラ、マスキングなどを用いて多様な絵具の表情変化を模索する。
-------	---

週	授業計画 及び 学習の内容
7	5/29前提講義 ドローイング・制作
8	制作 6/8講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
Webポータル参照

<p>授業持ち物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・15~20号 木製パネル ・ドローイング用具 クロッキー帳・鉛筆・カラーコンテ(カラーパステル又はコンテパステル)・水性絵具(水彩・アクリル絵具)など ・アクリル絵具(ジェッツや各種メディウム等含む) ・油彩用具一式 ・コラージュ素材など 	<p>学校で準備する教材など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デモ用としてアクリルジェッツ モデリングペースト ジェルメディウム ローラー マスキングテープ ヘラなど
--	---

配付資料

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	絵画コース	2023年度	前期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	絵画Ⅱ-3色彩と素材 【304教室】	実習	大島幹

授業の到達目標 (目標とする検定)	モチーフの固有色に捕らわれることなく色彩に対する柔軟性のある発想力と応用力を鍛える。 また、絵具の物質性にも注目し、水性・油性の特性や扱い方、表現的可能性についての認識を高める。
----------------------	--

授業の内容	<p>期間:5/29~6/8 AM/PM 計16コマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な材質感を持つ物を組み合わせた静物をモチーフに、色彩等の表現的展開を試みた絵画(15~20号)を制作する。 ・水性系(アクリルジェッツなど)下地材やメディウム類を用いて、テクスチャー作りやコラージュなどを行った後、水性及び油性の絵具による着彩を施す。 ・着彩は、目の前のモチーフの固有色に捕らわれずに、自由な発想による色彩表現を試みる(コラージュ素材本来の色と絵具の色との関りや色彩同士の偶然的出会い等も模索する)。また、描画に際しても筆だけでなくローラーやヘラ、マスキングなどを用いて多様な絵具の表情変化を模索する。
-------	---

週	授業計画 及び 学習の内容
7	5/29前提講義 ドローイング・制作
8	制作 6/8講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
Webポータル参照

<p>授業持ち物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・15~20号 木製パネル ・ドローイング用具 クロッキー帳・鉛筆・カラーコンテ(カラーパステル又はコンテパステル)・水性絵具(水彩・アクリル絵具)など ・アクリル絵具(ジェッツや各種メディウム等含む) ・油彩用具一式 ・コラージュ素材など 	<p>学校で準備する教材など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デモ用としてアクリルジェッツ モデリングペースト ジェルメディウム ローラー マスキングテープ ヘラなど
--	---

配付資料

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	絵画コース	2023年度	前期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	絵画Ⅱ-4細密描写 【304教室】	実習	佐藤功

授業の到達目標 (目標とする検定)	目の前のモチーフに迫るような描写表現を通して、対象への観察眼を深めると共に、描写における技術的な充実度や新たな表現的発展性を高める。 また、表現テーマとモチーフの関係性や独自の視点の在り方についての意識を高める。
----------------------	---

授業の内容	<p>期間:6/12~6/22 AM/PM 16コマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身が興味のあるモチーフを用意し、細密的描写による静物画を制作する。(モチーフは持参してもよい) ・様々な名画を通して、「描写」表現がどのように展開されてきたかを紹介。 ・キャンバスへの鉛筆による下絵描画、アクリル絵具での下絵の描き起こしの後、油彩による描画を行う。
-------	---

週	授業計画 及び 学習の内容
9	6/12前提講義 キャンバス準備・デッサン・制作
10	制作 6/22講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
Webポータル参照

<p>授業持ち物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・描きたいと思うモチーフを持参してもよい(前提講義を聞いた後でもよい) ・デッサン用具(各種鉛筆、消しゴム等)・画用紙(使用キャンバスと同程度のサイズにカット) ・油彩用具一式(筆の種類などは前提講義後でもよい) ・黒のアクリル絵具、細めの面相筆(水彩筆、デザイン筆など可) <p>※キャンバス(細目8号)は、学校で用意します。(有料)※初日にキャンバス張りを実施</p>	<p>学校で準備する教材など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モチーフ ・モチーフ台 ・布や背景用パーテーション ・キャンバス張用具各種 ・細目キャンバスと木枠F8号(人数分) ・カラージェツソ数色
--	---

配付資料

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	絵画コース	2023年度	前期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	絵画Ⅱ-5平面化とマチエール 【304教室】	実習	菊地達也

授業の到達目標 (目標とする検定)	絵画の具象抽象問わず普遍的な表現手法でもある「平面化」を実践し、 抽象の入り口に赴き、更にはその鑑賞能力を高める。
----------------------	--

授業の内容	<p>期間:6/26~7/13 AM/PM 計24コマ 近代以降の絵画における空間表現の一つである「平面化」を試みた作品(20~25号)制作します。</p> <p>「平面化」は、現代でも用いられる空間様式ではあるが実は決して新しくありません。ルネサンス以前の絵画は遠近法の未発達もあって、空間意識が異なり結果的に平面になっています。そのルネサンスによって確立された空間も1世紀も経つと遠近法に縛られない絵も出現し、数世紀後にはキュビズム台頭によってメインストリームから外れていきます。つまり絵画の歴史を辿ると、むしろ平面傾向の時代が長く、三次元的な空間を意識したのは数百年程度だったと考えられます。今では1部のジャンルにその影響を残しますが、現代の平面化はルネサンス以前と違い意識的に行っていて、遠近法を経験してきた分背景の奥行きや形態の厚み等、自在にコントロール出来るように発達してきた感があります。</p> <p>内容 モチーフは基本的には静物。※人物との組合せも可(他の授業でのデッサンやクロッキーを参考に) エスキースを充実させ作品制作に入ります。</p>
-------	--

週	授業計画 及び 学習の内容
11	6/26前提講義 ドローイング・エスキース制作
12	制作
13	制作 7/13講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
Webポータル参照

<p>授業持ち物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドローイング用具 クロッキー帳・鉛筆・カラーコンテ(カラーパステル又はコンテパステル)・水性絵具(水彩・アクリル絵具)など ・油彩用具一式(アクリル絵具も可) ・20~25号キャンバス 	<p>学校で準備する教材など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モチーフ ・エスキース用クラフト紙
--	--

配付資料

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	絵画コース	2023年度	前期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	絵画Ⅱ-6抽象的表現 【304教室】	実習	加藤健二

授業の到達目標 (目標とする検定)	近代以降の絵画空間における多様性を知ると共に、抽象的表現の試みを通して絵画的アプローチのより幅広い見識を広げる。
----------------------	--

授業の内容	<p>期間:9/11~28 AM/PM 計22コマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抽象的表現を試みた平面作品(25-30号)を制作する。 ・様々な作家による抽象作品を紹介し、作者の視点や制作アプローチの多様性について紹介する。 ・今回の制作では、作者の「外的・内的要因」などを基にした造形要素の在り方や関係性に注目し、それらの要素を絵画的にいかに展開するかを試みる。 ・それぞれの視点や造形的興味のポイントを探るべく多様なテーマ「意外性」「固有色の解放」「要素化」・・・などによるドローイングやエスキース制作を積極的に行い、新鮮な感覚との出会いを目指した平面作品への足掛かりとする。
-------	--

週	授業計画 及び 学習の内容
14	9/11前提講義 ドローイング・エスキース制作
15	制作
16	制作 9/28講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
Webポータル参照

<p>授業持ち物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドローイング用具 クロッキー帳・鉛筆・カラーコンテ(カラーパステル又はコンテパステル)・水性絵具(水彩・アクリル絵具)など ※筆や刷毛のバリエーションは重要 ・25-30号キャンパス(古キャンパス可) ・油絵具一式(アクリル絵具も可) 	<p>学校で準備する教材など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静物モチーフ ・クラフト紙(20号程度)複数枚
---	--

配付資料

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	絵画コース	2023年度	後期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	絵画Ⅱ-7支持体研究 【304教室】	実習	清水健太郎

授業の到達目標 (目標とする検定)	近代以降の絵画表現における多様な形態や素材による支持体の在り方を知ると共に、描かれるイメージと支持体の「形」との関係性についても意識し、新たな絵画空間への発想の足掛かりとする。
----------------------	--

授業の内容	<p>期間:10/2~19 AM/PM 計22コマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャンバス以外の素材の支持体を用いる事で、矩形のキャンバスに捉われない自由な形態や素材の絵画作品(30号程度)を制作する。 ・本課題のモチーフは自由。(静物、風景、人物、シュール、抽象など) ・その際に、他の授業でのデッサン(静物や人体など)やクロッキーなど参考としてもよい。 ・様々な作家による変形支持体の作品を紹介し、描かれるイメージと絵画の外形や成立ちとの関りを考える。 ・支持体にスタイロフォーム等のキャンバス以外の素材を利用し、自由な形態やテクスチャーを成形し下地処理を行なった後、アクリル絵具や油彩による描画を行う。
-------	---

週	授業計画 及び 学習の内容
17	10/2前提講義 ドローイング(エスキース) 支持体制作
18	制作
19	制作 10/19講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
Webポータル参照

<p>授業持ち物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドローイング用具 クロッキー帳・鉛筆・カラーコンテ(カラーパステル又はコンテパステル)・水性絵具(水彩・アクリル絵具)など ・アクリル絵具用具・油彩用具 ・カッター・木炭 <p>詳しくは、前提講義にて説明する ※支持体(30号程度)の材料等は学校で用意します(有料)</p>	<p>学校で準備する教材など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エスキース用クラフト紙 ・モチーフ ・スタイロフォーム(厚さ2種類) ・スチロールカッター ・ジェッツ ・スチロール用接着剤
--	---

配付資料

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	絵画コース	2023年度	後期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	絵画Ⅱ-8人体構成 【304教室】	実習	菊地達也

授業の到達目標 (目標とする検定)	古代から現代に至るまで多様な変遷を辿ってきた「人体」表現を考察し、「人体」の持つ造形的魅力を独自の視点や発想で捉え、より豊かな絵画空間の構築への足掛かりにする。
----------------------	--

授業の内容	<p>期間:11/6~11/22 AM/PM 計22コマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性モデル(ヌード)をメインのモチーフとして、独自の視点や構成を積極的に探求した作品(25-30号)を制作する。 ・これまでの授業で体験した再現的な表現から抽象的表現までの多様なアプローチを参考に、自身の表現の方向性などをドローイングやエスキースの制作を通して模索する。 ・必要であれば教室内に設置した複数のモチーフや環境等を組み合わせてもよい。
-------	---

週	授業計画 及び 学習の内容
20	11/6前提講義 ドローイング・エスキース 制作
21	制作
22	制作 11/22講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
Webポータル参照

<p>授業持ち物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドローイング用具 クロッキー帳・鉛筆・カラーコンテ(カラーパステル又はコンテパステル)・水性絵具(水彩・アクリル絵具)など ・油彩用具一式(アクリル絵具も可) ・25-30号キャンバス 	<p>学校で準備する教材など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性モデル(ヌード) ・エスキース用クラフト紙 ・モデル台など ・大型石膏像 ・マネキンなど
--	--

配付資料

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	絵画コース	2023年度	後期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	絵画Ⅱ-9風景構成 【304教室】	実習	清水健太郎

授業の到達目標 (目標とする検定)	取材～エスキース～本画という流れを意識して制作に取り組む。 エスキース制作を入念に行い、基本的な絵画空間の造形的骨組みを探る。 モチーフへの多様な視点や思考、さらに自身が求める絵画空間について追及する。
----------------------	---

授業の内容	<p>期間:11/27～12/14 AM/PM 計24コマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「都市と人」をテーマに、実際に校外に出て、渋谷周辺の多様な情景の取材を基にした作品(30号)を制作する。 ・取材より得たクロッキーや写真資料などを基にドローイングを重ねエスキース制作を行う。 ・建造物などの風景や人物、それらを組み合わせた空間構成など自由。 <p>本課題を制作する過程で修了制作への構想や技法・表現実験の足掛かりとします。</p>
-------	--

週	授業計画 及び 学習の内容
23	11/27提講義 制作
24	制作
25	制作 12/14講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
Webポータル参照

<p>授業持ち物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取材用具として、クロッキー帳や描画材、カメラ又はスマートフォンなど ・ドローイング用具 クロッキー帳・鉛筆・カラーコンテ(カラーパステル又はコンテパステル)・水性絵具(水彩・アクリル絵具)など ・30号キャンバス(パネルも可) ・油絵用具一式(アクリル絵具の使用及び併用も可) 	<p>学校で準備する教材など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エスキース用クラフト紙
--	---

配付資料

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	造形表現科	絵画コース	2023年度	後期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	絵画II-10修了制作 【304教室】	実習	清水健太郎 菊地達也 中嶋明 結城康太郎

授業の到達目標 (目標とする検定)	1年間の学びの集大成として、それぞれの視点やテーマ・技術を含む造形的特性をしっかりと認識し、自立した制作者としての足掛かりをつくと共に、発表者として自身の作品を展示の在り方についての意識を高める。
----------------------	--

授業の内容	<p>期間:12/18~2/15 AM/PM 計52コマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現時点での各自の制作スキルを活かし、作品テーマを考え、集中的に独自の表現を試みる機会が修了制作です。 ・本校は1年制の学校であるため、1年毎に修了となる。そのため1年間の学習の成果を問う形で、毎年修了制作を行う。 ・テーマは自由で、50号以上の作品を制作する。 ・油彩・アクリル絵具、キャンバス、パネルなど画材・素材は自由。 ・積極的にドローイングやエスキースを作成し、教員と相談しながら自己の作品内容の方向性や掘り下げを行う。 ・作品の展示方法や額縁の在り方、タイトルなど発表に向けた準備についても吟味する。
-------	--

週	授業計画 及び 学習の内容
26	12/18前提講義・導入 ~エスキース
	冬季休業
27	1/9計画書提出 制作
28	制作
29	制作
30	制作 中間講評(日程は別途お知らせします)
31	制作
32	制作 修了制作展で講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
Webポータル参照

<p>授業持ち物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドローイング用具 クロッキー帳・鉛筆・カラーコンテ(カラーパステル又はコンテパステル)・水性絵具(水彩・アクリル絵具)など ・50号以上のキャンバス(パネルなども可) ・油絵用具一式(アクリル絵具の使用及び併用も可) 	<p>学校で準備する教材など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修了制作計画表用紙(作品名・展示計画含む) ・エスキース用クラフト紙
---	---

配付資料
